

Vol.5

ITを活用した行政の革新とは何か

Graphic Recording

本データは懇談会における議論の可視化を目的として、富田 誠（東海大学 専任講師）の指導のもと、早稲田大学大学院ジャーナリズムコースの学生と東海大学デザイン学課程の学生が制作しました。

制作

富田 誠（東海大学教養学部専任講師）

小澤拓哉, 川崎 敬仁, 小山拓也, 永井 結子（東海大学 芸術学科 デザイン学課程）
加川直央, 角野雅美, 宮本裕人（早稲田大学院 ジャーナリズムコース）

技術協力

株式会社 MetaMoJi （使用ソフト Share Anytime）



行政と市民による共創 自治を再デザインする

Ex オープン311

通報システムの可視化

Ex City Sourced

街のどこかが壊れていれば
自分たちで直してしまう



Ex Open Austin

アメリカではOpen+地名の
プロジェクトがいくつもある

Ex Open Nasa

自治体だけではなく税金が投入さ
れるセクターもオープン化

Ex Big AppsIdeas

オープンソースのアプリコンテスト

Ex UK ideas for freedom

廃案にすべき法律を国民
に聞く

Ex GOOD POLITICS

オープン・ガバメントの試みだったが
途中で閉鎖

CLOSED

CLOSED

開かれたイノベーションのデザインとは？

Point

1 価値主導である

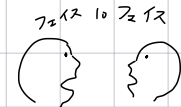
2 過程と結果を可視化する

3 アイディアの原石をエスカレーションさせよう

4 時にはリアルも織り交ぜよう

アイディアソン ハッカソン

5 オープンな力を使おう





三木さん

千葉市総務局

ITを活用した行政の革新とは何か？

市民参加によるまちづくり「ちばレポ」

課題 人口減と少子高齢化 財政難と公共サービス

市民の持っているパワーを活かしたい

ちばレポ

市民が課題をWEB上に投稿する

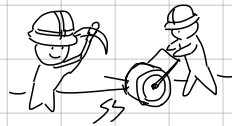
市民の方が対処できる課題

ボランティアで解決



市政が対処すべき課題

行政による解決

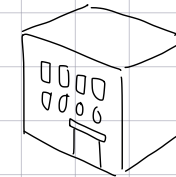


課題が地図にマッピング。対応中、対応済み化を可視化

今まで

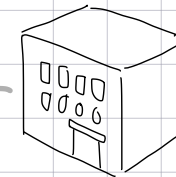


地域課題がクローズ



これから

地域課題をオープンにする



メリット

課題の現状がわかる

課題の優先順位がわかる

課題を共有化することで街のことがわかる

来年度、約96万人の全市民に向けてサービスイン予定



IT戦略を成功に導くために

役割と実行責任の明確化

例えば… 各省幹部にITに興味がない人が多い

国民に対する説明責任の履行

現状把握の徹底

お客様視点でのサービス提供

利用者が求めるのは縦割りを横断したサービス

例えば… 各省のウェブサイトがあるが、
日本国政府のウェブサイトはない

業務改革の徹底

標準化と共通化の徹底

具体的な改革プランの策定

マネジメント体制の確保等

変わるための姿勢とは？

過去の文化を捨てる勇気を持つこと

技術を違うからという理由で排除するべきではない

既存の価値観にこだわらないこと



古市さん

「素敵な監視社会」
著者 古市さん

監視社会は否定的に捉えられている

しかし

非常に便利な世界が待っている

とはいえ この国でできるの？

マイナンバー

オープンガバメントの疑問



国民の政治参加は必ずしもいいものか？



小林さん

本当は目的をはっきりさせて
目的を達成させるためにITを使うべきでは

ツールからではなく
体験と目的から制度設計をするべき



米良さん

Ex クラウドファンディング READY FOR

みんなで共有できる問題を解決するために
みんなでお金を出し合う

国民一人一人が主体的に協力する
ことに、クラウドファンディング
やオープン化を利用できないか



安田さん

オープン化や共有化による「炎上リスク」はないか

文句や問題を共有することで実態を伴わな
い批判が起きる可能性があるのでは



小林さん

炎上に関してはアーキテクチャーで
回避できることもある

炎上の定義によるけども炎上その
ものは否定するもの？



三木さん

ちばレポの炎上対策

投稿内容をフィルタリングしている
投稿900件→公開500件



官と民の違いは？

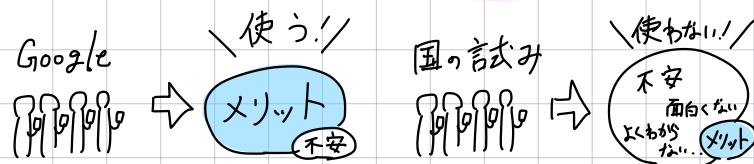
市民はGoogleを喜んで使う
なのに なぜ国の試みは進まないの？



住基カードの時は難しかったが、時代は変わってマイナンバーは認められるようになった

官だけでなく民間の力を
使いながら進めるべきでは

全国に均一のサービスを届ける ユニバーサルモデルは諦める必要がある？



市長がITリテラシーが高い

例：千葉市のマークが初音ミクに似ているかどうか市長がTwitterで議論



日本
完成度を高めてから提供するという発想
間違っちゃいけない文化

Google
永遠のβ版という発想
プロトタイプを作ってトライ＆エラーの文化



失敗を称える文化を育む必要性もあるのでは
成功事例は共有されても
失敗事例が共有するされにくい



情報教育が必要

データをどうアップする？共有すべき書き込みは何？



行政ではトライ＆エラーがしにくい
議会を乗り越えることが難しい
ちばレポは議会を通すことが難しかった



Ex

千葉市でオープンデータに関するセミナー開催

wsを通して市の職員でデータの扱い方を共有



海外
Ex

Code for America

職員を教育するのではなく、
エンジニアを派遣する取組



Ex

Code for Japan

オープンガバメントを推進する取組

行政に派遣受け入れをお願いしたいが
行政は変える意思がないのでは？

東京よりも、危機感のある地域の方が積極的

内閣レベルでITを推進することで
行政の意識が変わるのでは？



失敗を称える→オープンにする→競争がすすむ
「大失敗賞」があってもいい



問題解決力が
高い自治体

オープン化に積極的

問題解決力が
低い自治体

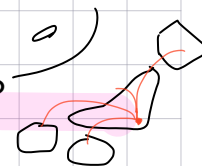
オープン化に消極的

ただオープン化するだけでいいのか？

デキる自治体ほどオープン化を進める

シグナリング

自治体制の競争化が進むのでは？



行政サービス間競争を可視化するべき

「千葉市はすごい！」→他の自治体に刺激

例えば、ワンストップの申告システムを
こうちくし、旅先でも通報できるような
システムを構築する



大臣

官民の役割分担がIT化で変わる

課題：参加率が低い市民に参加をどう促すか？

課題：プライバシーの侵害は？
→基準の必要性



事例：留学先のノルウェーは民主主義が盛んだった
→文句を言わないと動かない国

何も言わなくても動いてくれる日本
→文句を言わなくても上手く対応する
→市民参加を阻害していないか？

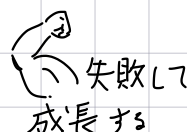
本当にITでやる必要があるのか疑問なことも...



仕事のシステムを整備してからIT化しよう

人材育成：「実業務は結局人間がやる」という限界
行政の業務はIT化だけではない
→しかし、本来の行政の役割こそが重要

全体像を理解してからIT化を進めるために、トライ・アンド・エラーを許容しよう。



ビデオレター 武雄市長 樋渡さん

職員が全員ITを使いこなすことが大事
→使いながら理解する

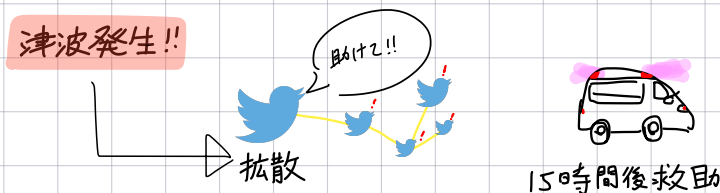


日本はIT先進国から2周半遅れている！

IT技術の素晴らしい可能性
→若者の人材育成が重要

ビッグデータの可能性：311の経験から

twitterが震災でどのように生かされたか



テキストマイニングで救済希望メッセージを自動的に抽出できないか？

海外事例

エストニアのe-societyという考え方
→社会全体で協力、ローコストで課題解決

事例：IT活用としてのマイナンバー

→医療関係で効果を発揮
→老後の安心のために国家の監視が必要

事例：新型インフルエンザ

→感染症のコントロール：GPSで行動記録を追跡、感染可能性エリアの把握

次ページに続きます

海外
事例

ロサンゼルス

- 情報提供等の市民番号が把握可能
- 炎上防止につながる？

まとめ：行政は既定路線というマインドセットを変えるべき



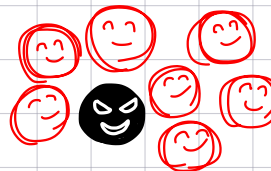
トレーサビリティの事例①：指紋認証システム

- 便利だが、今度から鍵ではなく指が盗まれる可能性！？
- 物品ではなく身体の一部が持っていられる社会は怖い



事例②：311のtwitter

- デマという弊害
- 課題：制度設計、匿名性の確保



- 例：身体の中にマイクロチップを埋め込む
- 倒れた男性の原因をチップから特定できる？



情報リテラシー教育でIT化の弊害を防止しよう

安全と安心の違い

安全：ガイドラインで規定可能

安心：際限がない

- 安心ばかり叫んでもIT化は進まない

日本のモバイル情報発信量は世界有数
しかし情報の蓄積量は北米の11%...



データを利用する
という意識が低い



「偽りの安心」という危険性

各自で安心安全の計算をする必要性
but 計算を狂わせる情報に騙される危険性
→情報判断ができない人を救わないといけない



join and Share!

人には「訴えたい」という本質的な欲求がある

→ ITで気軽に発信できる

海外事例 英国の"Fix My Street"市民
レポートに「いいね！」が
大量に集まると行政が動く

民主主義的な
システム



ITをはさむ



海外事例 ボストンでは街づくりに関
する市民のつぶやきを行政
が評価する

市民は課題解決
行政は表彰という役割

まとめ：欧米の「パブリック」は国任せではない
国民全員で課題解決という考え方

日本の課題：情報リテラシー教育を促すような制度設計が必要



提案：「一番乗り」と「優しい人」を評価する仕組みを導入
→ポジティブな連鎖を生む市民評価システムがあると良いのでは？



問題意識



米良さん

流行りに乗ってる？：カタカナ語だらけのIT議論

言葉だけがひとり歩きしていないか？

問題の発見とつながりの促進という前提からIT化を考えるべき



枠組み先行ではなく、課題解決という前提が重要！

問題意識



榎屋さん

どんな課題を解決するためのIT化なのか？

「IT」はツールでしかない

→課題が明確化していないと有効な解決策は生まれない

官民の「役割分担」→「じぶんごと」として協働しよう



小林さん

課題解決のためのIT

「オープン」はひとつの枠組み・思考

→まずは組織内からオープンにしないと成功しない

プライバシーとパブリックはどちらも「自己決定」の話

→なにをパブリックにするか？

→プライバシーを担保した上で、パブリックにおける共通認識をいかに醸成するか。



向井さん

プライバシーと利便性について

意見：「自分のため」という使い方ではオープン化できない

例：がんは公益だから方で登録を強制

→精神病などはプライバシーでは？

基準を引くことが必要

グレーゾーンを白と黒にわけろべき



田中さん

ITを使いこなす人は「課題が大事」というけれど、

→ITがわからないと解決できる

課題がわからない！

→ITリテラシーを高めることで

解決できる課題がわかるのでは？

民主主義のインフラをつくろう

クオリティの高いインフラ：難しい

クオリティの低いインフラ：炎上



浮川さん

コンピューターを利用するための技術が必要

- ITを使いこなす技術が日本には少ない
- 欧米には社会学kなどの領域からもITを考える人が多い
- 「課題解決」と「技術」の両方に精通した専門家が必要では？



森田さん

オープンデータ

- 市民が活用して政策を形成・伝播していけるのでは？
- データをもとに政策の質が向上・議論のきっかけ作りに



古市さん

世論調査の生データを出していくべき

- 民主主義×ITは相性が良い
- ブレイクスルーはどこにあるのか？

国民の意見を重視すると
ポピュリズムの危険性



大量の審議会@政府→データが豊富な資料を配布

意見：議論の中身やデータを公開
→市民の議論が促進されるのでは？



安田さん

オープンデータは
デメリットが少ない

データ公開→

データを利用する技術
者が成長する

→市民が自発的に公共
的課題を発見、解決し
ようとする



森田さん

意見のもとになっている事実の共有が大事！